



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222)7207 番

95.2.24 No. 4148

冬季対策の不備が問題

1・29 架線 事故問題で団交 2月17日 千葉 支社

一月二十九日、総武本線四街道
物井間で架線事故が発生し、
約九時間に渡り不通となった。

当局は、「霜害でパンタグラ
フが破損し、それによって架線
が損傷した」としている。しか
し、事故前日、銚子運転区では、
「凍結臨の出勤」が問題となり、
当直も指令に問い合わせたが、結
局、凍結臨も出されず、当日の
事故に至った。

動労千葉は、そうした事態に
対し、千葉支社の冬季対策の不
十分性などを追及してきた。

組 二十九日の事故復旧は、八時
間もかかっている。総合的な
冬季対策が整っていないこと

が問題。また事故復旧に手間
取ったのは、要員合理化の結
果だ。

組 架線が広範囲に渡って垂下
し、復旧に時間がかかった。

組 文書回答は、気象台情報だ
けが終夜き電や凍結臨の判断
材料だとしている。支社独自
の判断材料はないのか。

当 成田電力区で、四時に湿度、
気温、風力測定している。測
定で、基準値に達した場合、
凍結警戒を出し、パンタグラ
フの状態確認を検査派出で行
っている。当日は基準値には

達していなかった。

組 四時の測定では凍結臨の手
配に間に合わないではないか。

当 湿度、気温、風速の相関関
係で霜害が起こることが最近
解ってきた。成電のデータを
もとに今後の対応に生かして
行く予定である。

組 現在はどうするのだ。運転
士は、「明日の朝凍結しそう
だ。」と経験上解る。事故前
日、銚子運転区でも問題とな
った。当直では、凍結臨や終
夜き電の実施について、指令
に問い合わせを行っている。

当 成電の測定は、当日気温〇
・五度C、風力一・〇m/sであ
り、基準には達しなかった。

責任を運転士に
転嫁するな！

組 今回の事故以降、走行中、
アークが出たら、最寄り駅に
停車し、運転士がパンを確認
せよとの指導が行われている。
しかし、パンの状態が悪かつ
た場合、運転士は「運行可能
かどうか」を判断出来ない。

当 運転士が明確な状況を指令
に伝えて欲しい。

組 凧取り棒にしる、除雪棒に
しる、何でも運転士に押しつ
けてくる。派出検査をきちつ
とにおいて、確認するべきだ。

当 気持ちは解るが、運転士が
確認して欲しい。

組 運転士の養成教育では、運
転士は運転、検査係は修繕が
仕事というものだった。今は
何でも運転士に責任をかぶせ
るようになっている。問題だ。

当 世の中の流れがあるでしょ
う。故障した場合、誰かがや
らなければならない。

組 代行バスの到着も遅い。
当 事故が発生して、即バス代
行を要請した訳ではない。架
線の状態が予測出来なかった。
バス会社も運転手がすぐに
は手配できない。

組 車両状態は、指令に連絡し
ている。車両状態でバス代行
の判断が出来たはずである。
当 架線があればどうやらされてい
るとは考えられなかった。

組 四街道物井間で非常停車
した634Fは、日曜で乗客
が少なかったが、それでもパ
スが来るまでの間、運転士は
テンテコマイだった。停車し
てから、対抗列車がすぐに通
過したので、降車して歩きだ
そうとする乗客を止めたり、
受験の学生が、多く乗ってい
たため、踏切対策に来た施設
社員に携帯電話を借り、連絡
をとったりした。また、代行
バスに乗ってきた支社対策員
に、乗客から切符の払い戻し
について問い合わせがあった
ので、尋ねたところ、「そん
なもの、特認扱いにすれば
いい。切符の裏に、特認扱い
と書き、所属・氏名を書けば
いいんだ。」とつつけんどん
だった。

当 対策員が車掌と間違えたの
ではないか。

組 異常時に、余りにも運転士
に対して配慮がない。食事も
対策員にはしつかり、手配さ
れるが、本線途中で停車して
いる運転士に対しては、何も
ない。今回もそうだ。

当 可能な限り手配するように
する。



労組交流センター

第2回総会開催される！

2月18～19日、浜松市において全国労働組合交流センターの第2回総会が開催された。総会では、(1)「阪神大震災」を労働者の問題として捉え、被災労働者・人民の現地救援闘争(医療・法律・労働相談等)を支えるために、全国で救援運動を展開する。(2)大失業と戦争の時代を闘う新たな労働運動潮流作りを全力で展開する。そのために、戦後50年攻撃と対決として8・15闘争を労働者の闘いとして組織する。…本年の頂点に11月労働者集会を全国集会として組織化する。などの方針が決定された。また、水野正美事務局長が退任し、新事務局長に動労水戸・辻川委員長が選出された。労組交流センターは、闘う労働者を貫くフラクションとして、反戦闘争を闘う労働者の部隊として、未組織労働者の組織者として90年後半を全力で闘う決意を固めている。